

複式5・6年国語科学習指導案

5年 男子3名 女子2名 計5名

6年 男子3名 女子3名 計6名

指導者 朝野 竜輔

1 単元・教材 5年単元 筋道の通った物語を書こう

教材「ふしぎな世界へ出かけよう」(書く・東書5年下)

6年単元 作品をよりよくするための助言をしよう

教材「子ども句会を開こう」(書く・東書6年下)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第5学年)

この時期の子どもたちは、2年生10月の単元「絵を見てお話を書こう」で、三枚の絵を手がかりに場面の様子を想像してお話を書く学習をしてきている。また、3年生10月単元「お話を作ろう」では、絵地図から想像を広げ、場面ごとに整理して物語を書く学習をしてきている。

そこで今回は、想像した世界について、全体の構成を考えて物語を書く学習を設定した。本単元では、想像したことを基に物語を書くという言語活動を通して、場面の展開の仕方や構成を考えながら、筋道の通った文章を書く能力や場面の情景が伝わるよう、表現を工夫する能力を身に付けることをねらいとしている。

ここでの学習は、5年生1月の教材「伝えよう委員会活動」で、目的に合わせて書くことを選び、報告の文章を書くために効果的な構成を考える活動や、読み手に効果的に伝えるために写真や図表を用いて書く活動へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「ふしぎな世界へ出かけよう」は、自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成を考えることと、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることを重点指導事項としている。

本教材で扱う物語は、主人公が現実の世界から

(第6学年)

この時期の子どもたちは、4年生10月の単元「連詩にちょうせんしよう」や、同じく2月の単元『十さいのわたし文集』を作ろうで、観点をもとに友達の作品を味わい、それぞれのよさについて気付いたことを伝える学習をしてきている。

そこで今回は、子どもたちが経験したことや想像したことをもとに、目的に応じて言葉を選んだり吟味したりしながら俳句や短歌を作る学習を設定した。本単元では、表現を工夫して俳句や短歌を作り、感想や助言を伝え合うという言語活動を通して、決められた観点で句を評価し、書き手の表現のよさを認めたり助言をしたりする能力を身に付けることをねらいとしている。

ここでの学習は、中学校1年生での、書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりする活動へと発展していくものである。

教材「子ども句会を開こう」は、書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うことを重点指導事項としている。

本教材は、身近な生活経験で感じたことをもとに表現の仕方を工夫しながら俳句を作る活動が設定されており、自分の思いを効果的に伝える表現方法

別世界へと行き、また現実の世界へ戻ってくると
いう設定になっており、場面の変化がはっきりし
ている。そのため、物語の構成を「設定」、「展開」、
「山場」、「結末」の4つの部分で考える学習に適
した教材である。

また、5年生のこの時期は、前単元で物語の構
成や展開の面白さを読み取り、自分でも書いてみ
たい、面白い話を作りたいという意欲が高まって
いる。さらに、別世界を想像するという活動は、
理想や夢を求め、新しい世界に対する憧れが強
くなるこの時期の子どもたちにふさわしい教材
であるといえる。

このような教材の特質を生かして、本単元
では、筋道の通った物語を書くために、構成の4
つの部分の役割を考え、その効果が出るように書
いたり、場面の情景が読み手に伝わるように、様
子や行動、会話を工夫して書いたりする能力を身
に付けさせたい。

具体的には、まず、構成の能力を高めるために、
既習の物語文を活用し、構成の4つの部分である
「設定」、「展開」、「山場」、「結末」の役割につ
いて十分想起させるようにする。また、本教材のモ
デル文を基に、構成を行う上で必要となる各部分
の役割の分担や効果を高める表現、盛り込んだ方
がよい事柄、場面の変化を明確にするための部分
相互をつなぐ出来事や言葉などについて考えさ
せていきたい。また、記述の能力を高めるために、
場面の様子や登場人物の行動、気持ちについて表
す言葉を集めさせるようにする。さらに、事実と
意見の書き表し方の違いや、どんなところをくわ
しく書いたらよいか、「設定」と「結末」におい
て人物の気持ちには変容があることなどを考え
させ、表現を工夫して書く活動ができるようにし
たい。

を習得する学習に適している。また、「子ども句会」
という発表・交流の場が設定されており、自分や友
達の作品に対する思いや感想、助言の伝え合い方を
習得する学習に適した教材である。

また、6年生のこの時期は、これまでに俳句を作
る活動を体験しており、思い描いた情景や気持ち
を、短い言葉で相手に伝えることの難しさや、上手
に表現できたときの楽しさも感じている。そこで、
作った作品を紹介し合ったり、助言し合ったりする
本教材は、言葉や表現の知識が増えてきたこの時期
の子どもたちにふさわしい教材であるといえる。

このような教材の特質を生かして、本単元では、
交流を通して表現の仕方を高め合うために、俳句の
特性や構成、表現の工夫を考え、作品に表された情
景や気持ちを読み味わい、表現のよさを感想や助言
として自分なりの言葉で伝え合う能力を身につけ
させたい。

具体的には、まず、交流の能力を高めるために、
俳句の特性である季語や五・七・五のリズム、十七
音という短い言葉で様々な世界を豊かに表現する
ことを既習事項や日常の経験を基にとらえさせた
い。

そして、教科書の作品や自分たちで書いた俳句か
ら、感じた情景や気持ちを出し合い感想を伝え合う
活動を通して、俳句の表現形式のよさを実感しお互
いの作品から学び合うという交流の目的やそれぞ
れの作品のよさを俳句の特性や使われている言葉、
表現の工夫を基に情景や気持ちを読み味わい、伝
え合うという交流の仕方を身につけさせていきたい。
また、句会についてもおおよその方法と流れを理
解できるようにさせる。

学習形態については学年別指導を基本とするが、単元の過程をできるだけそろえたり、書く内容に
関連をもたせたりすることで、学年の枠を越えた異学年交流の場を積極的に設け、複式学習指導を行
うことのよさを十分生かしていきたい。また、本単元での重点指導事項を、5年生は「構成」と「記
述」、6年生は「交流」とし、重点化と系統性を意識した指導を心がけていきたい。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、書くことに関すること及び複式指導(主にガイド学習)に対してどのように受け止めているかを調査した。結果は以下の通りである。(調査実施日H26. 8.21.)

第5学年				
A児	B児	C児	D児	E児
① お話を考えて書くことは好きですか。				
あまり好きではない	あまり好きではない	好きではない	まあまあ好き	好き
② 理由				
題が思いつかない	考えが思いつかないから	ぜんぜん思いつかない	好きなお話を書けるから	小さいころからよく作っていた
③ お話の内容を考えるとときに、大切にしていることは何ですか。				
文の構成	一番重要な部分	4つの部分がちゃんと書けているか	事件などが起こるようにする	話がおもしろいか
④ お話を書くとき、読み手がよく分かるようにするために、どんなことを気をつけていますか。				
順序よくかく	細かいところまで分かりやすく書く	漢字を使う	話の順序がわかるようする	おかしい言葉はないか
⑤ ガイド学習の進め方はできていますか。				
まあまあできている	まあまあできている	あまりできていない	まあまあできている	まあまあできている
⑥ 理由				
ガイドをしたことがある	つまづくけれど、スムーズにすすむときもある	何をすればいいかわからなくなるときがある	前にもしたことがある	何度かしたことがある

第6学年					
F児	G児	H児	I児	J児	K児
① 自分が書いたものを友達と読み合ったり発表し合ったりすることは好きですか。					
あまり好きではない	あまり好きではない	まあまあ好き	あまり好きではない	あまり好きではない	あまり好きではない
② 理由					
文をまちがえるから	発表が得意ではないから	自分が書いたものを友達に見せるのは好きではない。	発表するのが苦手だから	発表するのがあまり好きではない	自分が書いたものを読むのが苦手
③ 友達の書いたものを読んだり、友達の発表を聞いたりするときにどんなところに気をつけていますか。					
意見	どこが良かったか・内容	文章の工夫に気を付ける	何を一番伝えたいのか	意見をしっかりと聞く	句読点や漢字

④ 友達の作品や発表で気づいた“よさ”を相手に伝えていきますか。					
伝えている	少しは伝えている	少しは伝えている	伝えている	少しは伝えている	少しは伝えている
⑤ 理由					
どのように表現しているかを伝えている	いいところを伝えている	指示があれば伝えている 相手のよさに気付かないことがある	相手は、これでいいということが分かるから		相手が自分のよさを分かってくれるから
⑥ 俳句を作るのは好きですか。					
好き	まあまあ好き	まあまあ好き	まあまあ好き	好き	まあまあ好き
⑦ 理由					
リズムがとてもいいから	考えがつかないときもあるが、好きなように作れるから	作ることは楽しいが、あまり関心がない	いい俳句を作れるとうれしいが、そこまで好きではない	思い通りに書けるから	すぐ言葉が出てきて、リズムがいいから
⑧ ガイド学習の進め方はできていますか。					
できている	まあまあできている	まあまあできている	まあまあできている	まあまあできている	あまりできていない
⑨ 理由					
よくガイド学習をしているから	だいたいの手順が書かれているから	友達と話していることがある	少し、進め方が分からなくなる	ちょっと時間をとりすぎる時がある	静かになるときがある
<p>5年生の子どもたちの全体的な傾向は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語を書くことに関して苦手意識をもっている子どもが多い。【設問①②5人中3人】 物語のおもしろさを表現するためには、何らかの出来事があり、それを4つの構成で表すとよいことを理解している子どもが多い。【設問③5人中4人】 話の順序や表現方法など読み手を意識して書こうとしている児童が3名、表記上の誤りを意識している児童が2名いる。【設問④】 ガイドの進め方はある程度分かっていると感じている子どもが多い。【設問⑤⑥5人中5人】 <p>書くことが苦手な理由として、「思いつかない」ということが共通しており、物語の構成を考える際には、これまでに読んだことのある物語を参考にす</p>			<p>6年生の子どもたちの全体的な傾向は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が書いた作品を発表することに苦手意識をもっている子どもが多い。【設問①②6人中5人】 友達の作品や発表に対して関心をもって聞こうとする子どもが多い。【設問③6人中5人】 友達の作品のよさを感じようとする態度はあるものの、感じたことを十分相手に伝えられない子どもが多い。【設問④⑤6人中4人】 俳句への関心が高く、俳句のリズムを理解し楽しむことができる子どもが多い。【設問⑥⑦6人中5人】 ガイドの進め方はある程度分かっていると感じている子どもが多い。【設問⑧6人中5人】 <p>作品を発表することが苦手な理由として、交流の</p>		

るなどの手立てが必要である。また、構成を考える際には、どのような出来事が起こると読み手の興味を引き付けることができるかを考えるように指導したい。

個々の実態は以下のとおりである。

A児は、アイデアが豊富で積極的に発言しクラスをリードすることができる。また、教師や友達の意見もよく考えながら聞くことができる。しかし、書くことに関しては構成が単調で、日記では出来事と感想を書いてくるのがほとんどである。

B児は、慎重に物事を考えることができる。間違えを避けるために慎重になりすぎる場面もある。また、まじめな性格なので、発想を広げる活動は苦手としている。

C児は、自分の考えを順序よく論理的に説明することができる。また、楽しいことが好きで、発想が豊かでもあるので、周囲の友達への助言も時期期待できる。しかし、思考の道筋がはっきりしないと考え込んでしまい活動に時間がかかることもある。

D児は、学習に意欲的に取り組み、積極的に発言することができる。また、文章構成を考えて書く力もある。

E児は、落ち着いて学習に取り組み、友達の意見にも興味を持ち考えながら聞くことができる。また、文章構成を考えて書く力もある。人物や情景を描写する力を今後つけていきたい。

目的や方法についての理解が十分でなため、自分が書いた作品を自信をもって発表できないことが考えられる。お互いの作品のよさを認め合い、励ましや自信をもつことができる力を、交流の活動を通して育てていく必要がある。ガイド学習については、時間設定や話合いの進め方など、活動を充実させるための課題を感じている子どもに対して手だてをしていきたい。

個々の実態は以下のとおりである。

F児は、理解力に優れ発言力もあり、学習をリードする力がある。知識も豊富であり、独特の感性を持っている。長文を書くことは苦手としているが、詩や俳句などは意欲的に取り組む。交流の場面では、他人を思いやった発言をすることが課題である。

G児は、落ち着いて学習に取り組み、じっくりと論理的に考えることができる。周囲への気遣いもできる。語彙力が少ないので表現が単調になりがちである。

H児は、感性が豊かで、感じたことを上手に文章に表すことができる。これまでの俳句作りでは、味わい深い俳句を作ることができていた。自分の考えに自信が持てず意見を取り下げってしまうことがある。

I児は、読書が好きで、難しい言葉や知識もよく知っている。友達の作品に対して客観的な視点で感想を伝えることが多い。

J児は、明るい性格で、授業中に分からないことやできないことも隠さずに質問や発表をすることができる。また積極的に周囲の友達に関わり、良い点を素直に伝えることもできる。日記などで、自分の考えや思いを文章に表すことも上手である。

K児は、積極的に前に出ようとはしないが意欲を持って学習に取り組むことができる。発表に関しては慎重である。日記などでの文章を書く力はあるが、俳句づくりに関してはストレートな表現が多い。

(4) 指導上の留意点

- ア 導入においては、これまでに学習してきた「世界でいちばんやかましい音」や「注文の多い料理店」との関連を図るために、学習で作成した掲示物などを残しておくようにする。また、夏休みに書いた物語も手元に置いておき、活動を振り返ることができるようにする。
- イ 別の世界を考えるときには、これまでに読んだことのある物語の世界や自分が行ってみたい別の世界などを引き出し、子どもたちの発想が広がるように支援したい。また、中心人物の人物像については、性別や性格、趣味や特技など人物の詳細まで考えさせるようにしたい。
- ウ 構成を考える際には、まず、ナビシートを使って物語の構成の各部分の役割を確認していく。また、「場面」の移り変わりと「構成の部分」がどのように対応しているか確認をし、それぞれの場面でどのような出来事が起こるのか、話の筋道が通るように気を付けながら考えさせたい。
- エ 教科書のモデル文を読みながら、「4つの部分」を確認していく際には、出来事の変化を表す言葉を確認し、それらの言葉を用いることで表現に迫力や臨場感が生まれることを理解させたい。また、登場人物の人柄が感じられる会話や行動、場面の様子が想像できる描写の仕方などを確認し、気持を表す形容詞以外でも、読み手に様子を感じさせることができる表現方法があることを理解させたい。
- オ 実際に物語を書く際には、ナビシートや考えた構成を適宜振り返らせ、筋道が通った物語が展開していくように心がけさせたい。なかなか書き進められない子どもに対しては、
- ア 俳句の決まりについては、「五・七・五」の十七音で作られていることと、「季語」を入れるという2点について確認する。また、これまでに様々な機会を通して俳句作りを経験しているが、多くの作品に「うれしい」「楽しい」など感情を表す形容詞が使われていたことから、俳句の特徴として、自分のイメージしている情景を言葉で表現し、読み手に情景や感情を想像させていることにもふれ、よりふさわしい言葉を吟味していこうとする意欲を高めたい。
- イ 題材を集める段階では、子どもたちがそれぞれの季節で印象に残っていることをできるだけ多く引き出したい。その際には、季語にとらわれず自由に出すように指示をしたい。なかなか活動が進まない児童に対しては、連想表を準備する。
- ウ 実際に俳句を作る際には、活動が単なる言葉の組み合わせを探す活動にならないように配慮したい。そのために、まず、どのような情景を伝えたいのかをイメージさせる。次に、その情景からどのようなことを伝えたいのか意図を明確に持たせる。そして、それらを表現するのにふさわしい季語や言葉を探し、俳句を作っていく活動にしていきたい。この時には、一つの作品にこだわることなく、できるだけ多くの作品作りに取り組みせたい。
- エ 友達の作品を互いに読み合う活動の際には、事前に読む観点をしっかり確認する。具体的には、「季語」「五・七・五のリズム」「感じた情景・気持ち」「表現方法のよさ」などである。そして、教科書のモデル文などを参考に、その作品をよりよくするための表現方法について助言する活動にも取り組みせたい。
- オ 友達から感想や助言を受けた後は、再度、自

これまでに学習した物語や友達の作品例などを準備して参考とさせたい。

カ 推敲を行う際には、誤字脱字や表記上の誤りを探すだけではなく、①「場面」の移り変わりや②「物語の4つの部分」がはっきりしているか、それぞれの部分で出来事が設定されているかなどについても確認させる。また、人物の行動や会話、場面の様子について、詳しく書くのか簡単に書くのか、どちらがより相手の想像を広げることができるか考えさせたい。一人では作業が進まない場合には、友達の作品を読み、推敲の参考にする時間も取りたい。

キ お互いの作品を読み合う際には、肯定的に読み、作品の良さを見付け出すようにさせたい。感じたことは、付箋にメモし友達の作品に貼るようにさせる。

ク ガイド学習の際は、ガイド役の子どもと打ち合わせを行っておき、自信をもって進められるように配慮する。また、活動内容が理解できていないという状況を防ぐために、わたる前にも活動内容を確認し、活動に入れているかを見届けてから他学年にわたるように心がける。

ケ 間接指導の練り上げの段階では、ガイド役の子どもだけでなく、フォロワーの役割も重要であることを意識させる。そのためにも、学習の進め方は全員がいつでも確認できるように掲示しておく。

コ 複式のよさを生かして、学年を分けずに一斉指導を行う時間を設ける。また、適宜異学年の交流場面を作ることで、それぞれの学習内容の習熟を図る。

サ ナビシートを活用し、本單元までの学習の振り返りや本單元での学ぶべき重点指導事項をしっかりと押さえさせる。この単元で書き込んだナビシートは、ナビシート綴りに綴っておき、今後も継続して活用を図らせたい。

分の作品と向き合い、言葉や表現方法を吟味し推敲をして、作品を仕上げさせたい。その際には、活動の前後で作品が変わらなかったとしても、子どもの中では自分の考えをより深めることができただろうととらえ、無理には変えさせないようにする。

カ 「子ども句会」を開く際には、子どもたちが情景を共有しやすくするために、「学校内で感じた秋の情景」とテーマを統一して俳句作りに取り組みさせる。できた作品は、無記名で掲示し、それぞれの作品に対して感想と助言を伝え合う場を設定する。ただし、本学級は6名と少人数であるため、優れた俳句を選出する投票は行わない。

キ 短歌については、「五・七・五・七・七」の三十一音のリズムで構成されていることと、「季語」を使わなくてもよいことを確認する。しかし、これまで学習してきた表現方法については生かすことができることも確認しておきたい。

6年④ 表現を工夫して、俳句や短歌を作ろう (教材 子供句会を開こう) (10月)

<p>重点指導事項</p>	<p>(1) カ (交流) 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。</p>
<p>言語活動</p> <p>表現を工夫して俳句や短歌を作り、感想や助言を伝え合う。</p>	<p>【関連のある今までの学習】 「連詩にちょうせんしよう」[4年] (10月) 評価規準：完成した作品を読んで、自分や友達の言葉のよさについて感想を伝え合っている。 言語活動：友達と協同で一つの題に沿って詩を書く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="284 539 571 824"> <p>【学習の流れ】</p> <p>俳句について理解を深め、感じたことや発見したことから題 + + + 俳 句</p> </div> <div data-bbox="579 539 978 1205"> <p>【評価規準】</p> <p>作った俳句や短歌を読み合い、感想を伝えたり、助言したりしている。</p> </div> <div data-bbox="986 539 1425 1305"> <p>【具体的指導事項】</p> <p>決められた観点で句を評価し、そのよさについて伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○俳句のきまり <ul style="list-style-type: none"> ・五・七・五の十七音 ・季語が入っている。 ○表現の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・例え ・順序の入れかえ ・ふさわしい言葉 ○短歌のきまり <ul style="list-style-type: none"> ・五・七・五・七・七の三十一音 </div> </div>

子ども句会の進め方(例)

- 1 作った俳句を一人一句ずつ紙に書いて提出する。作者名は書かない。
- 2 集めた紙に番号をつけてはり出す。
- 3 はり出された俳句の中から、すぐれていると思った俳句を一人三句ずつ選ぶ。
- 4 投票用紙に選んだ句の番号を書いて提出する。
- 5 投票用紙を集計し、結果を発表する。
- 6 自分の選んだ句やすぐれていると思った句について、感想や意見を話し合う。

六年生が作った俳句を読んでみましょう。

いねかって田んぼの道が遠く見え	坂本 由香里
秋晴れの空の真ん中かんらん車	脇谷 幸
自転車をきれいに洗う秋はじめ	渡辺 奈津美
赤とんぼ遊びつかれてさあかえろ	富田 真吾
ぶどうの実一つ一つに日があたる	芝原 菜苗

4 目標

- 場面展開を考え、文章全体の構成を考慮することができる。(書く能力・構成)
- 作品をよりよくするために、表現の仕方に着目して感想や助言を伝えることができる。(書く能力・交流)
- 目的や意図に応じて表現を工夫して書くことができる。(書く能力・記述)

5 指導計画 (5年生7時間, 6年生6時間)

過程	学習過程・主な学習活動 (第5学年)	学習過程・主な学習活動 (第6学年)	過程
事前	コンクールを活用し、物語づくりに取り組ませておく。	コンクールなどを活用し、俳句に取り組ませておく。	事前
	<p>前単元</p>	<p>1 学校や夏休みに俳句を作った経験を振り返る。</p> <p>2 教科書の児童作品を読み、いいところを話し合う。</p> <p>いいなと思ったところを、友達に伝えるのって、難しいなあ</p> <p>3 学習計画を立てる。</p> <p>(1) 活動</p> <p>子ども句会を開き感想を伝え合おう。</p> <p>(2) 問題</p> <p>友達の作品のいいところを見つけるには、どのようなところに注目したらいいだろう。</p>	つかむ・見通す
つかむ・見通す	<p>1 前単元「注文の多い料理店」の学習や夏休みに物語を作った経験を振り返る。</p> <p>あんな風に、おもしろい物語を書けるようになりたいなあ。</p> <p>2 学習計画を立てる。</p> <p>(1) 活動</p> <p>物語を作って、校内放送でみんなに聞いてもらおう。</p>	<p>4 俳句の決まりや表現の工夫の仕方を確認し、具体的にモデル作品のいいところはどこか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 季語など俳句に使われている言葉から、これまでの自分の体験などを関連させて、思いつくことを出し合う。 ○ それぞれの俳句の季語を確認する。 ○ モデル作品を読み情景や気持ちを想像して発表する。(ナビシート作成) <p>俳句を読むときには、情景を思い浮かべたり気持ちを感ずることが大切なんだね。</p>	調べる・習得する

<p>つかむ・見通す</p>	<p>(2) 問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドキドキ・ワクワクする物語の構成はどうすればいいだろう。 ・ どのようにしたら、人物の様子を分かりやすく表現できるだろう。 </div> <p>(3) 計画 全7時間を立てる。 (4) 中心人物の人物像を考える。 ○ どのような性格なのかを考える。</p>		
<p>調べる・習得する</p>	<p>3 これまでの学習を振り返り「設定」「展開」「山場」「結末」の四つの部分が、それぞれどのような役割を持っているかについて確認する。 ○ 「世界でいちばんやかましい音」や「注文の多い料理店」の学習をふり返る。</p> <p>4 教科書のモデル文を読み、構成を確認する。 (ナビシート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ モデル文と構成を対応させ、モデル文は「展開」と「山場」の一部が省略されていることを確認する。 	<p>5 これまでの生活で心が動いた出来事や体験、発見を「五・七・五」のリズムに当てはめ、俳句を作る。 ○ 季節を問わず、10句以上作る。 ○ 俳句のきまりを意識して作る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>俳句は、季語を入れるのと「五・七・五」のリズムで作るんだってね。</p> </div> 	<p>調べる・習得する</p>
	<p>5 「展開」「山場」の部分の出来事を考える。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「展開」部分で起こる出来事を3つ考える。 ○ 「山場」部分の出来事の解決方法を1つ考える。 ○ 出来事の順番や出来事の解決方法が話の道筋にあっているか確認する。 <p>【評価 (構成)】 場面展開を考え全体の構成を考えている。</p>	<p>6 友だちの俳句に対する感想や助言を伝える。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の俳句を読み、情景や気持ちを想像し、俳句に対する感想や助言を伝える。 ○ 友達からの感想や助言を参考にし、俳句を仕上げ発表する。 <p>【評価 (交流)】 決められた観点で句を評価し、そのよさについて伝えている。</p>	
	<p>6 場面の様子や人物の気持ちが伝わるような書き方を考える。(ナビシート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ モデル文から、場面の様子を表すための工夫や、人物の気持ちが分かるような行動や会話を見つける。 	<p>7 子ども句会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「秋」をテーマとした俳句を考え句会の進め方に従って会を進める。 	

	<p>7 考えた構成をもとに、物語の下書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「設定」「結末」部分も必要に応じて自作する。 ○ ナビシートを参考にしながら学習を進める。 ○ B4 作文用紙に下書きする。 	<p>8 短歌の特徴を理解し、実際に作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「五・七・五・七・七」の三十一音のリズムでできていることや、季語を必要としないことを確認する。 ○ 俳句で学習した工夫を生かして短歌づくりを行う。 <p>9 単元のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 友達の作品をよりよくするには、観点を決めて読み、よりよくなる具体例を考えて伝えるといい。 </div>	まとめる・広げる
	<p>8 場面展開や表現の工夫を確認しながら推敲をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 筋道が通っているか、確認する。 ○ 人物の気持ちが伝わるように行動や会話が書かれているか確認する。 <p>【評価（記述）】</p> <p>目的や意図に応じて表現を工夫して書いている。</p> <p>9 物語を清書する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ B4 作文用紙に清書する。 	<p>(習字 「6 字形」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 点画や文字と文字のつながり (小筆) <p>〈俳句〉</p>	まとめる・広げる
まとめる ・ 広げる	<p>10 仕上がった物語を読み合い、感想を交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構成の仕方や表現の工夫に着目して感想を伝える。 <p>11 友達の作品を綴り、物語集を仕上げる。</p> <p>12 単元のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドキドキ・ワクワクする物語にするには、「展開」と「山場」出来事を工夫するといい。 ・ 場面や人物の様子を、具体的に表すといい。 </div>	<p>(習字 「6 字形」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 点画や文字と文字のつながり (小筆) <p>〈俳句〉</p>	

5 本時（第5学年：3/7，第6学年：3/6）

(1) 目標

○ 筋道が通った話になるように、全体の構成を
考えることができる。

(2) 指導に当たって

重点指導事項である構成を考える時間である。筋道が通った話を構成するには、「設定・展開・山場・結末」のそれぞれの部分で、どのようなことを考えるとよいのかをはっきりさせ、実際の内容を考えていくようにさせる。考える際には、それぞれの場面でどんな出来事が起きるのかを考えさせると共に、「山場」の部分に向かって、どんな出来事が起こると読み手の興味を引き付けることができるかも考えさせたい。また、考えた構成を友達に紹介し、お互いに検討し合うことで多様な考えを引き出し、構成を深められるようにしたい。

○ 作った俳句や短歌を決められた観点をもとに読み合い、感想を伝えたり助言したりすることができる。

重点指導事項である助言を行う時間である。助言を行うためには、相手の意図をしっかりと受け止める必要があるので、お互いの俳句を紹介し合う際には、表現したい情景や感情を詳しく伝えるようにさせる。また、ナビシートを活用しながら、観点をもとに相手の俳句を読んだり、考えを聞いたりできるようにしたい。また、相手の俳句をよりよくするための具体例を考える時間は十分にとれるようにしたい。本時の学習の成果については、全体への俳句の発表の際に、どのような助言を行ったのか発言する場を設け評価を行う。

(3) 展開

指導上の留意点	主な学習活動（5年）	単	位置/時間	単	主な学習活動（6年）	指導上の留意点
<p>○ 前時までの学習で考えた中心人物の人物像を振り返らせ、物語を考える意欲を高める。</p> <p>○ モデル文の一部が省略されていることを意識して読ませる。</p> <p>○ ナビシートを活用し「展開」「山場」の役割を確認する。</p> <p>○ 子どもたちから出てきた言葉を使ってめあてを立てられるようにする。</p> <p>○ 学習の流れを板書しておく。また、ガイドとの事前打ち合わせをしっかりとしておく。</p> <p>○ 学習の流れを全員が確認できるように、小黒板に板書しておく。</p> <p>○ 「注文の多い料理店」やこれまで出会った物語を想起させ、展開から山場に工夫があることに気付かせる。</p> <p>○ 今回の物語の「展開」部分では、中心人物が大きな動物に追われる出来事を考えることに気付かせる。</p> <p>○ 「山場」部分では、モデル文とは別の解決方法を考える。</p> <p>○ 並べ替えながら考えられるように短冊を用意する。</p> <p>○ 様々なアイデアにふれられるよう、必要に応じて相談しながら活動させる。</p> <p>○ ナビシートを参考にしながら、じっくり構成を練らせる。</p> <p>○ 考えた構成を黒板に掲示し、出来事を組み立てる際に、ワクワク・ドキドキ感を出すために工夫したところも発表させる。</p> <p>○ ガイドを中心に、それぞれの児童の構成について検討させる。</p> <p>○ 出来事を組み立てる際に、どんなことに気をつけたのかについて話し合う。</p> <p>○ できるだけ、子どもたちから出てきた言葉をもとにまとめる。</p> <p>○ 板書で簡単に、来年度学習する6年生の学習内容を紹介しておく。</p> <p>○ 次時は、表現の工夫の仕方について学習することを確認する。</p>	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 教科書のモデル文を音読する。</p> <p>3 ナビシートで、「展開」と「山場」の役割について確かめる。</p> <div data-bbox="352 418 871 557" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「展開」では、いろいろな出来事が起こって、「山場」では、大きな変化があるんだっけ。</p> </div>		1分	つかむ・見通す4分	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時の学習のめあてを確かめる。</p> <div data-bbox="1167 278 1686 388" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達の俳句のいいところを、みんなで分かり合うにはどうすればいいだろう。</p> </div> <p>3 学習の進め方について確認する。 俳句を選び交換する→感想を交流する→一つ選んで清書する→発表する→まとめる</p>	<p>○ 前時の学習で自分が作った俳句を振り返らせる。</p> <p>○ 子どもたちから出てきた言葉を使ってめあてを立てられるようにする。</p> <p>○ 学習の流れを板書しておく。また、ガイドとの事前打ち合わせをしっかりとしておく。</p>
	<p>4 本時の学習のめあてを確かめる。</p> <div data-bbox="352 655 871 795" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ドキドキ・ワクワクする構成は、「展開」と「山場」の出来事をどのように組み立てるといいだろう。</p> </div> <p>5 学習の進め方について確認する。 構成のしかたを確認する→出来事を考える→発表する→まとめる</p> <p>6 「展開」「山場」の構成のしかたについて確認する。</p> <p>○ 「展開」「山場」に必要な出来事</p> <p>「展開」…いろいろな出来事が起きる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物に追われるきっかけの出来事 ・危機になるような出来事 <p>「山場」…大きく変化する出来事が起きる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開で起きた出来事が解決する出来事 	つかむ・見通す	10分	調べる・習得する20分	<p>4 グループで俳句を紹介し合う。</p> <p>(1) 前時に作った俳句から3句紹介する。</p> <p>(2) 観点をもとに感想を交流し合う。 (観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季語 ・表現の工夫(使っている言葉、たとえば、言葉の順序など) <p>5 全体で紹介したい1句を選び、短冊に清書し、紹介する。</p> <div data-bbox="1188 1056 1686 1219" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>とてもいい俳句ができたぞ。みんなに、僕が表したかった情景や気持ちがつたわるといいなあ。</p> </div>	<p>○ 前時に作成した俳句から、紹介したい俳句を3つ選びプリントに記入し、交換させる。</p> <p>○ ナビシートをもとに、友達の俳句の情景や気持ちを想像させる。</p> <p>○ 一人当たり3分を目途に感想を交流させる。</p> <p>○ ナビシートの観点をもとに、いいなと思った句に対して感想を述べさせる。</p> <p>○ 友達の感想や助言から、変えたい部分が出てきたら変えてもいいことを知らせる。</p> <p>○ 短冊を用意し、自分の作品を清書させる。</p> <p>○ 清書したものを黒板に掲示させる。</p> <p>○ ガイドを中心に進行させ、感想や助言を1句あたり2・3人出させる。</p> <p>○ 児童と一緒に児童の作品を読み、素晴らしい表現や変容が見られた部分などを伝える。</p> <p>○ 情景や気持ちを想像した感想や助言を行えた児童を積極的に称賛する。</p> <p>○ ガイドを中心に話し合いを進めさせる。</p>
	<p>7 出来事を具体的に考える。</p> <p>(1) 「展開」部分の出来事を3つ考え短冊に書く。</p> <p>(2) 出来事の組み立てを考え短冊を並べ替える。</p> <p>(3) 「山場」部分の解決の方法を1つ短冊に書く。</p> <div data-bbox="373 1650 871 1789" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どんな出来事が起きると、読む人はドキドキ・ワクワクするかなあ</p> </div> <p>8 「展開」「山場」に当てはまるように考えた出来事を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人発表する。 ○ 意見や感想を伝え合う。 	調べる・習得する18分	8分	まとめる・ひろげる21分	<p>6 全体でお互いの俳句について感想や助言を伝え合う。</p> <div data-bbox="1188 1472 1686 1694" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>俳句を読むときには、情景や気持ちを想像しながら読むといいんだっけ。</p> </div> <p>7 今日学習したことについて話し合う。</p> <div data-bbox="1188 1872 1686 2036" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>観点を決めると、俳句のよさを伝えやすくなったし、友達の感想も分かりやすくなったよ。</p> </div> <p>8 学習のまとめをする。</p> <div data-bbox="1167 2154 1686 2288" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>観点を決めて、それをもとに想像した情景や気持ちを伝えると分かり合うことができる。</p> </div>	<p>○ 児童と一緒に児童の作品を読み、素晴らしい表現や変容が見られた部分などを伝える。</p> <p>○ 情景や気持ちを想像した感想や助言を行えた児童を積極的に称賛する。</p> <p>○ ガイドを中心に話し合いを進めさせる。</p> <p>○ 第1時間目に、気に入ったところを伝え合ったことを思い出させ、観点を決めて伝え合うよさに気付かせる。</p>
	<p>9 今日学習したことについて話し合う。</p> <div data-bbox="373 2154 871 2318" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「展開」は、出来事の大きさを考えて順序よく組み立てるといいんだね。「山場」の解決の方法は、意外な方法が出てくるとおもしろくなるん</p> </div> <p>10 学習のまとめをする。</p> <div data-bbox="373 2392 871 2555" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ドキドキ・ワクワクするような構成は、「山場」に向かって、だんだん盛り上がっていくように出来事を組み立てるといい。</p> </div>	まとめる・ひろげる	5分	まとめる・ひろげる21分	<p>9 教科書を音読する。</p> <p>10 ナビシートで俳句の交流について確かめる。</p>	<p>○ できるだけ、子どもたちから出てきた言葉をもとにまとめる。</p> <p>○ 子ども句会の進め方を音読する。</p>
	<p>11 学習の振り返りを、6年生を交えてする。</p> <p>12 次時の学習を確認する。</p>	13分	3分		<p>11 学習の振り返りを、5年生を交えてする。</p> <p>12 次時の学習を確認する。</p>	<p>○ 板書で簡単に昨年度学習した5年生の学習内容を復習させる。</p> <p>○ 次時は、子ども句会を開くことを確認する。</p>